

～みんなで政党を作ろう～



参政党の衆議院議員15名を紹介  
政治に無関心だった私たちが  
国会議員になるまで。  
参政党・衆議院議員3人に聞く

# 参政党に 参加しよう。

## 参政党ってどんな党？

参政党は、こんな政党です。

「今の政治を変えなければ日本の未来が不安だ」と危機感を持った一般の人々が集まり「投票したい政党がないから、自分たちでゼロからつくる。」を合言葉に2020年に大企業や宗教団体などの支援のない小さな政治団体として発足。

わずか2年後の2022年の参院選で奇跡的に170万票以上を集め国会議員1名が誕生し国政政党になりました。さらに2024年の衆院選では3人の国会議員が誕生、次いで2025年夏の参院選で全国比例・選挙区合わせて14人国会議員が誕生。2026年冬の衆院選で衆参合わせて国会議員が30名となり、地方議員を合わせると全体で214名（2026年3月現在）の議員が所属する政党となりました。

全国にいる党员が信念を持ってボランティアで支える「小さいけれど力強い政党」。それが参政党です。 This is the political party SANSEITO.



参政党は、こんな国を目指しています。

子供たちのために、頑張れば希望が広がる日本を取り戻したい!!  
そのためにはまず日本が大好きな子供を増やし、暗記型の偏差値教育から日本や社会の未来を考える力を育む教育に変えます。日本の文化や精神性を身につけて、お金至上主義の世界を変えていく人材を育てます。また、医療費を下げるために食と健康を見直し、農業を守って安心安全な食糧供給体制をつくります。さらには積極的な財政支出と減税政策で経済を立て直し、少子化を食い止め、過度の移民受け入れや外国資本の流入にも規制をかけます。  
参政党は日本とそこに暮らす人々の事を第一に考える「日本人のための政党」です。



This is the kind of country SANSEITO aims to create.

参政党は、こんな人たちががんばっています。

◎ 議員の人数	・国会議員 30名	・市議会議員 137名
<b>214</b> 名	・県議会議員 8名	・町議会議員 22名
	・区議会議員 14名	・村議会議員 3名
◎ 所属議員の男女比	◎ 所属議員の平均年齢	◎ 支部の数
男性 <b>130</b> 名	<b>48</b> 歳	<b>289</b> 支部
女性 <b>84</b> 名		

※ 令和8年3月現在（詳しくはHPをご覧ください）



These are the people working hard at SANSEITO.

### INFORMATION

参政党は国民が学び、考え、政治に参加するプラットフォームです。QRコードから、ぜひ参政党の活動をご覧ください。

### 参政党の 国会活動

[https://sanseito.jp/diet\\_activity/](https://sanseito.jp/diet_activity/)



### 参政党の イベント情報

<https://info.sanseito.jp/>



### 参政党の 理念

<https://sanseito.jp/about/#philosophy>



参政党は、日本全国に289の支部を設立し、「国民が政治に参加する政党」として、特定の支援団体に依存せず、国民の声が届く「新しい政治」を目指しています。各地域で話し合い、学び、協力体制を築きながら議員を輩出しています。

参政党のサポーターになりませんか？ / 参政党からの活動報告やイベントのお知らせを週に一度メールで配信します。お気軽にご登録ください。 [ご登録はこちら](#)



# 普通の人々が国会議員に。



sanseito.jp

◎ 参政党はHP/SNSでさまざまな情報を発信しています。是非、下記QRコードからご視聴ください。



YouTube参政党チャンネルでは参政党の記者会見、委員会質問、街頭演説など国民の知るべき情報を発信しています。



参政党・衆議院議員3人に聞く

# 政治に無関心だった私たちが

## 国会議員になるまで。

「日本の未来を変えようと思ったあの日の決断」



——まず、自己紹介をお願いします。

**吉川** 参政党副代表の吉川里奈です。衆議院議員2期目になります。小・中学校生3人の子どもの育てる母親で、政治の世界に入るまでは看護師をしていました。夫が党员として活動を始めたのをきっかけに参政党を知り、日頃から子育てや医療、教育に対して感じていた違和感の答えが実は政治の中にあるんだと知り、生活と政治が一本線で繋がった気がしました。それから「同じ思いを持つお母さんたちに日本の未来を一緒に考えてほしい」という思いで私も参政党の活動に参加。候補者を全国に擁立するという流れの中で「党のためなら」と自分で手を

**谷** 谷浩一郎です。今年2月の衆院選で兵庫6区から出馬し近畿ブロック比例復活で当選させていただきました。それ以前はオペラ歌手として25年以上活動しており、大学で非常勤講師も務めてきました。元々20代のころから歴史認識の問題や政治への関心はありましたが、音楽の道を優先し、しばらくは政治に関しては横に置いていた状態でした。そんな状況が一変したのがコロナです。あの時に芸術活動が大きく制約を受け、「政治が変わらなければ音楽すらできなくなる」と強く感じたことが、参政党に参加した直接のきっかけです。

**なかや** なかやめぐです。千葉県我孫子市在住で、高校生2人の母親です。地元ではネイリストと着付け師として働き、地域の子どもたちに剣道を教えていました。もともと政治にはほとんど関心がなかったのですが、長男のアドバイスをきっかけに医療や社会のあり方への疑問が積み重なっていきました。参政党との出会いで、その疑問がすべて一本の線につながったというのは吉川さんと同じです。そして4年前に神谷代表の街頭演説を聴いて衝撃を受け、その日のうちに家族に「ここで活動する」と宣言しました（笑）。家族には「急にどうしたの？」と笑われましたが、それからすぐに運営党员となり活動に参加し、3度目の国政選挙で、南関東ブロックの党员の皆さん、有権者の皆さんの力で今回当選させていただきました。

——政治に関心を持ったきっかけについて、もう少し詳しく聞かせてください。  
**なかや** 息子のアドバイがひどくて病院でいくら治療を受けても症状が改善しなかったんです。そこから「医学がこれだけ発達しているのに、なぜ病気は増えているのか」という疑問がずっと頭の中にありました。その答えが参政党の発信の中にあり、「変えたいけれど変えられない」と諦

社会全体が一気に同じ方向へと向かっていく同調圧力の恐ろしさ。

谷浩一郎



医学がこれだけ発達しているのに、なぜ病気は増えているのか？  
なかやめぐ

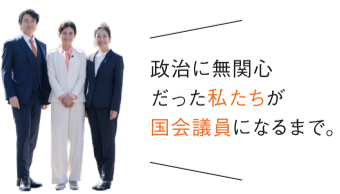
めていた自分が、初めて「この党なら変えられるかもしれない」と感じたんです。自分の根底には常に「誰かの背中を押したい」という思いがありました。その思いと向き合えるのが参政党だと確信したことが、政治の世界に飛び込む後押しになりました。

**谷** 私はコロナ禍でのオペラの稽古中にマスクを着けて歌うよう求められた時、「これは本質的におかしい」と思いましたが、その事を周囲に訴えても組織の中では自分の意見は通らなかつたんです。社会全体が一気に同じ方向へと向かっていく同調圧力の恐ろしさを肌で感じましたね。それから、いち歌手としてどこかの団体に所属するだけではなく、自ら裁量権のある立場で参加できるように仕事の形をシフトしていくとともに、政治を変えたいと根本的な問題は解決できないという確信を持つようになりました。

**吉川** 看護師として医療現場で働いていた頃は、例えば「この保険診療の仕組みはこのままでいいのかな？」などいろんな小さな疑問をなんとなく感じていました。また子どもの教育でも学校教育の中で「自己肯定感や正しい歴史認識がきちんと育まれているのだろうか？」という不安がありました。参政党がそうした日々の違和感にはっきりと「答え」を与えてくれた。その答えを、同じ悩み・想いを持つ人たちに伝えずにはいられなくて、気がついたら参政党の活動が私の生活の中で大きなウエイトを占めるようになりました。

——政治家としての活動は忙しいと思いますが、ご家族の反応はいかがですか。

**吉川** 夫は変わらず支えてくれています。一方で、子どもたちはやはり寂しい思いをしていると思います。特に長男は、今回の選挙と受験の時期が重なり、当選後もすぐに国会が始まったため、約束していたご褒美をまだ一緒に買いに行けていません。国会と自宅は近い距離にありますが、帰宅が深夜になることも多く、子どもたちに負担をかけてしまっていると感じています。親



政治に無関心だった私たちが国会議員になるまで。

政治とは無縁だった3人は、なぜ参政党の活動を通じて国会議員になったのか。

看護師として子育てに奔走していた 吉川 里奈 (参政党副代表・衆院2期)、オペラ歌手として25年以上のキャリアを持つ 谷 浩一郎 (近畿ブロック比例)、2児の母、そして剣道の指導者でもあった なかや めぐ (南関東ブロック比例)。官僚出身者や政治家2世が多い永田町では逆に異色の経歴も持つ3人が、政治を志したきっかけ、国会に飛び込んで見えた現実、そして自分たちだからこそ描けると信じる日本の未来像を率直に語ってもらった。



政治に無関心だった私たちが国会議員になるまで。



大きな目標は、参政党が政権の中核を担える政党へ成長することです。それなくして、日本の政治が本当の意味で変わることはないと考えています。

吉川 里奈

として申し訳ない気持ちは常にありますが、その分、限られた時間を大切にしながら、家族の支えに感謝して活動しています。

——新しく議員になられたお二人のご家族はいかがですか。  
谷 ウチの息子は「パパが当選したら学校で自慢する」と言っていたのですが、実際に当選すると私が東京、家族が兵庫、と離れて暮らす事になり寂しそうにしています。妻もピアノ教室の経営や大学の非常勤講師を務める忙しい人なので、生活スタイルを大きく変えてもらうことになりました。政治家になる可能性については事前に十分話し合っていました。予測していた以上に協力をしてくれている家族には感謝しかありません。

なかや 私の夫は昨年の参院選のころから活動で忙しい私の代わりに家の中のことを積極的に手伝ってくれているようになりました。家事がめきめき上達して、今では「キッチン俺のテリトリーだ」と言うほどです(笑)。両親はすでに他界しており義実家も遠方なので、夫の協力なくしては成り立ちません。活動を始めた当初は家族に笑われましたが、今は「大変だけど頑張ってる」と応援してくれています。子どもたちも母親の忙しさは覚悟してくれているようで、逆に励みになっています。

——国会議員になった今、ご自身はどんなお気持ちですか。  
谷 当選させていただいたことはもちろんうれしくありますが、当選後は毎日疲れ果て眠るのもパタッという感じです。毎日情報のインプットの量が膨大で、脳に外付けのハードディスクが欲しいくらいです(笑)。ただ議員として活動する中で「なぜ国はこんなことをするのか」と長年疑問に思っていたことを、実際に国家運営をしている官僚の方々に直接聞けるというのは、純粋に大きな喜びです。その答えを聞きながら、次はどう聞いかけようかとワクワクしています。

なかや 私はSNSで見えていた景色と、実際に国会の中に入って見えた景色は全く違っていたので戸惑っています。たった数日ですがこの短い期間の議員経験で、他の議員



——吉川さんも地域の活動が重要だとお考えですか？

吉川 はい。今回、東京都では皆さま方のご尽力により、30選挙区すべてに候補者を擁立することができましたが、小選挙区で勝利を目指すには、まだ多くの課題があることを肌で感じました。地域によって党員の熱量や活動スタイルも異なる中で、エリアごとに基礎票を積み上げていく、組織的な選挙を次回は目指していく必要があります。そのためにも地方議員の存在は欠かせませんし、政策立案チームの充実も含めて、野党第3党として参政党に求められる水準の体制を整えていくことが急務だと考えています。

数が増えた今だからこそ、「選挙に強い組織づくり」と「政策の自身を磨くこと」、この両輪をしっかりと強化していかなければならない時期に来ていると感じています。

——最後に、参政党の未来、そして日本をどのような国にしていきたいか、思いを聞かせてください。

なかや 国会で何が起きているのかを、以前の自分のように政治を遠いものと感じている人たちへ届けることが私の役割だと考えています。国会と国民の温度差を埋め、政治を「自分ごと」として考える人を増やしていきたい。かつての自分がそうだったように「どうせ変わらない」と諦めている人たちの背中を押すこと、それが議員としての私の使命だと思っています。

そして、偏差値や収入だけで人の価値を測るのではなく、一人ひとりが「何のために生まれ、何のために命を使うのか」を考えられる社会にしたいです。誰もが自分に価値があると感じられる世の中を、参政党というプラットフォームを通じて実現したいと考えています。

谷 私が目指すのは、戦後に断絶されてしまった日本人

の方や官僚の方々が本気で日本をよくしようとして動いていることがよくわかりました。それでも国民の生活が苦しいとすれば、現場と国会の間にずれがある。その乖離がどこから来るのかを探りながら「早く戦力になりたい」という焦りの中で毎日を過ごしています。

——吉川さんも1期目は同じ感覚でしたか。

吉川 1期目の感覚は谷さんやなかやさんと同じでした。外から見えている世界と中の現実とは異なっていました。みんなそれぞれの正義で日本のために一生懸命働いている。ただ、本来なら国民の方向を向いているはずの日本の政治の舵取りが、どこか違う方向に向ってきた結果が、いわゆる「失われた30年」なのではないか。国会の中に入ってみて、そんな思いを強く持つようになりました。私たちが正しいと思う政策を進めるためには、同じ思いを持つ政治家を増やしていかなければなりません。政治の世界は最終的には多数決で決まるからです。「だからこそ、投票に行かなければならない」という結論に行き着きます。優秀な官僚の方々が政策の土台を作ってくださいとしても、その方向性を決めるのは、指揮官にあたる政治家であり政党です。誰が、どの党がその役割を担うのか？その重要性を、この1年半で強く感じました。

——2期目を迎えての自己評価は？また副代表という立場については？

吉川 1期目は、まず国会の仕事を学び、吸収することに必死でした。所属した法務委員会ではインプットに多くの時間を費やしました。党勢拡大の活動にも関わる中で、政策立案に十分な時間を割けなかった点は率直に反省しています。

今回は念願の予算委員会にて総理に質問する機会をいただきましたが、調査や質問の練り込みという点では、まだまだ改善の余地があると感じています。副代表という立場については、いまま葛藤の連続です。知識や経験が十分とは言えないという自覚もあります。しかし同時に、全国の党員の皆さんの思いを内側から受け止め、政治の場で代弁していくことも、副代表としての大切な役割だと感じています。

としての歴史観・価値観を取り戻し、「閉ざされた言論空間」を打ち破ることです。2600年以上続くこの国の歴史を国民が正しく学び、一つの価値観に流されない、リテラシーを持った国民が育つ社会をつくりたい。善悪の二元論に簡単に引き寄せられず、自分の頭と心で考えて行動できる国民が増えてこそ、民主主義は本当に機能すると信じています。そのための教育環境を整えることが私の夢です。

また、新人議員として自分の役割をしっかりと理解しながら、国会では党を支え、地元では地域を引っ張っていく。オペラの舞台と同じように、主役と脇役がそれぞれの持ち場でベストを尽くすことで全体として最高の舞台が完成する。党員の皆さん、国民の皆さんにとって私と参政党がそんな存在になればと思います。

吉川 大きな目標は、参政党が政権の中核を担える政党へ成長することです。それなくして、日本の政治が本当の意味で変わることはないと考えています。

私たちが目指すのは、努力が正當に報われ、子どもたちが日本の未来に希望を持てる国です。現場で汗を流す人も、家庭や地域を支えている方々も、政治によって暮らしが守られていると実感し、安心して生活できる社会を築いていきたいと思っています。

明日に希望を持ってない国では、少子化に歯止めをかけることはできません。若い世代が安心して家庭を築き、子どもを育てられる環境を整えていくことが必要です。

これまで受け継がれてきた命のバトンを次の世代へつないでいく。その責任を胸に、党員の皆さんとともに一つ一つの仕事を積み重ね、日本に生まれてよかったと思える国を未来へ残していきたいと考えています。

その責任の重さを胸に、今日より明日、明日より明後日と少しでも成長できるよう、日々自分自身を磨いていきたいと思っています。

——新人議員のお二人の国会議員としての目標や課題を教えてください。

なかや 私の役目として最も重要なのは、地方議員を増やし党勢を拡大する事だと考えています。今回の選挙でも、選挙区内で市議会議員がいるエリアとそうでないエリアでは、開いやすさが明らかに違いました。国会議員が30人に増えても、地方に根ざした議員がいなければ党としての足腰がぐらつく。地方のお困りごとを解決する縦のラインが整って初めて政党として安定します。そのためには地元の顔が利く方々に連絡を取り、次の統一地方選に向けて候補者を発掘する活動を始めています。

その方法は私の熱を皆さんに伝える「熱伝導」ですね。少し重い表現になりますが、みなさんに「自分の命が終わる時に何を残したいか」を一緒に考えてもらうことだと思っています。また、党員の方々との関係を密にし、風通しをよくすることも欠かせません。「聞いていない」という不満から信頼関係は崩れます。支部・県連との役割分担を明確にしながら、こまめに情報を共有し、選挙になれば力を合わせられる体制を整えておくことが大切だと感じています。

谷 国会議員になってすぐ、神谷代表から「地元活動に比重を置いてほしい」というお話をいただきました。次のステージへ進むためには地に足のついた地域活動が不可欠だと、私も強く感じています。

これまで3回の選挙経験がありますが、最初の市議選で8000軒の挨拶まわりを経験したことが私の今の政治活動の礎になっています。地元に戻れば自分が主役になって引つ張る立場になる。国会議員としての社会的信用を活かして、地方議員候補の方と一緒に地域を回り、参政党の理念を伝えていく。政治塾から出てくる人材との連携を強化し、地域との絆で党勢を拡大していくことが次のステージへの道筋だと思っています。



なかや めぐ Megu Nakaya

衆議院議員、44歳。美容サロン・着付け教室を経営。剣道講師としても活動。千葉県我孫子市在住。高校生2人の母。



谷 浩一郎 Koichiro Tani

衆議院議員、44歳。ドイツ国立マンハイム音楽大学卒業、大阪音楽大学大学院修了。オペラ歌手として25年以上活動、大学で非常勤講師を務める。10歳の子どもの育てる父。



吉川 里奈 Rina Yoshikawa

参政党副代表/ボードメンバー/衆議院議員、38歳。看護師・保健師として勤務したのち24年衆議院議員初当選。新宿区在住。小中学生3人の子どもを育てる母。

# 参政党の衆議院議員が15名になりました。

参政党は「今の政治、日本の未来」に危機感を持った一般の人々が集まり、2020年に小さな政治団体として発足しました。大企業や宗教団体などの支援を受けず、一人一人の党員が活動を支える形で結党してわずか2年後の2022年の参院選で国政政党に。さらに2024年の衆院選、2025年の参院選、そして先の衆院選を経て現在30人の国会議員が所属。地方議員を合わせると全体で214名（2026年3月現在）の議員が所属する「小さいけれど力強い」政党です。



参政党の議員紹介はこちらから



## 吉川 里奈

衆議院議員  
（比例東京ブロック）

多くのご支援をいただき無事2期目のスタートを切ることができました。2期目は個人としての議員活動はさることながら、党副代表としての職責を鑑みて国会、さらには地方選挙に至るまで精一杯党勢拡大に努めて参ります。

党副代表  
ボードメンバー



## 豊田 真由子

衆議院議員  
（比例北関東ブロック）

「声なき声を聴く」—そう思って、これまでずっと行政や政治や民間での仕事に携わってまいりました。原点を大切に、経験を活かし、社会保障、経済、外交を中心に、すべての方が、誇りと安心、希望をもって生きられる日本、独立自尊、世界で信頼され、国益を実現する国を作ります。

政調会長  
ボードメンバー



## 木下 敏之

衆議院議員  
（比例九州ブロック）

国会で積極的に質問を行い、高市政権の抑止力となるよう努力します。また、霞が関の各省庁からデータをいただき、説得力ある政策を立案します。国会では、まだ少数ですが、来年4月の統一地方選挙、再来年の参議院議員選挙を通じて議員が増えるように力を尽くします。



## 鈴木 美香

衆議院議員  
（比例東京ブロック）

465議席、朝6時の当確発表で最後の1議席を掴み取ることが出来ました。ひとえに支援者の皆様、共に戦った党員達のおかげです。感謝を胸に、国民目線で責任と覚悟を持って全力で挑んで参ります！正直者が馬鹿を見ない！頑張る者が報われる！社会を作って参ります！



## 工藤 聖子

衆議院議員  
（比例南関東ブロック）

参政党を応援して下さる全国の皆様のおかげで大切な1議席をお預かりすることとなりました。皆様の期待に十二分に応えられるよう、皆様が願う「日本人ファースト」の政治を推し進めることができますよう、粉砕身勢努めて参ります。



## なかやめぐ

衆議院議員  
（比例南関東ブロック）

輝かしい経歴はありませんが、私がかこに立たせていただいた意味を深く自覚しています。迎合せず信念を貫き、日本の未来のために、一人ひとりの意識と誇りを育み、自立した国民を増やすため発信し、行動してまいります。



## 伊藤 恵介

衆議院議員  
（比例東海ブロック）

岐阜県選出の参政党国会議員として、地域、現場の声を一つでも多く国会で伝えていきたいと考えています。また、参政党の党勢拡大のために優れた地方議員を一人でも多く輩出できることが重要と考えておりますので、地元での活動に力を入れて参ります。



## 和田 政宗

衆議院議員  
（比例東北ブロック）

何よりも皇室の発展のため力を尽くします。旧宮家の男系男子の方々の皇籍復帰を実現し、男系男子による皇統の未来永劫の継承を確定させます。選択的夫婦別姓の阻止、LGBT教育の推進撤回に動きまます。参政党を皆様とともに発展させ、真に国家国民のための政治を実現します。



## 川裕 一郎

衆議院議員  
（比例北陸信越ブロック）

参政党が掲げる政策の実現に全力を尽くすとともに、能登半島地震からの着実な復旧復興、北朝鮮による日本人拉致問題の解決、そして犬猫の殺処分ゼロの全国実現に向け、地方議員として培った18年の経験を活かし、より良い日本を創るため、責任と覚悟をもって取り組んでまいります。



## 石川 勝

衆議院議員  
（比例近畿ブロック）

国会における重要な委員会「議院運営委員会の委員」を拝命致しました。19年間にわたる地方政治の経験と、全国にいる同志との連携力が、日本国のために活かされるよう、より謙虚で丁寧な活動を基本に、大胆な改革に挑戦します。引き続きよろしくお願いたします。



## 青木 ひとみ

衆議院議員  
（比例北関東ブロック）

看護師の経験から心に寄り添う温かい政治を行い、現場に生きる国民の声が反映された政策実現を目指します。次世代が希望を持てる、真の国益にかなう政治を推進。現場の声に耳を傾け、食と健康、地域の未来を切り拓く活動に邁進し、子どもたちが誇れる日本を共に創り上げます。



## 渡辺 藍理

衆議院議員  
（比例東海ブロック）

こどもたちの未来を守る教育改革を軸に、現場の声を丁寧に拾い、日本の国益となる政治を行います。丁寧な対話を重ね、日本国民が主体となる日本国をつくるために、全力で取り組んでまいります。一つ一つの声を大切に、誠実に歩み続けます。



## 谷浩 一郎

衆議院議員  
（比例近畿ブロック）

三度の立候補を経て大切な議席を預かることとなりました。かつての挨拶まわりでは「市政対策委員です」と訪問をしてもご対応いただけなかったことも多々。しかし代議士となった今、より積極的に「ドブ板」を行います。地域との繋がりをより強固にする政治活動を展開したいです。



## 島村 かおる

衆議院議員  
（比例中国ブロック）

皆さまの声に丁寧に耳を傾け、日本で暮らし、働く人々の思いを大切にしながら、できることを着実に政策へつなげてまいります。環境と暮らしの安心を守り、未来の子どもたちに誇れる社会を築いていくため、誠実に積み重ねてまいります。



## 牧野 俊一

衆議院議員  
（比例九州ブロック）

財務金融委員・経済産業委員を拝命致しました。減税を阻む壁の正体を国会で明らかにし、国益を守り日本の未来を切り拓くエネルギー・産業政策を力強く推進します。九州・鹿児島県を丁寧に聞き、地方議員と力を合わせ、現実の政策を動かす力になって参ります。

我々は国民の代弁者となって、国会で必死に戦ってまいります。

参政党には利権もバックもありません。ですから、国民目線でなんでもかんでも訊きたいことを国会で訊くことができます。現場で頑張る国民、一生懸命働き納税する国民、そういった人々が「報われないな、おかしいな」と思うことを如何に吸い上げて質問するかが参政党のモットーです。国会質問を見ていただければ他の党との違いがわかっていただけたと思います。参政党の国会質問はたくさんの方が見てくださいます。何故か？それは「興味を持って

るから、国民の声を代弁しているから」です。与党の足を引っ張ることが目的の週刊誌みたいな国会はもうありません。大事なことは国民の暮らしがどう変わるかです。政治が何を变えてくれるのか？どうすれば国民が払った税金で国民の生活がよくなるのか？子供や孫の世代にどんな恩恵を政治が作ってくれるのか？それを皆さんが聞きたいはずです。国会に送り出しいただいた15名の参政党の議員は、国民の代弁者となって必死に戦ってまいります。

その国会での姿を参政党の公式YouTubeチャンネルで全て中継しアーカイブで視聴できるようにしています。ぜひご覧いただき、一緒に日本の政治を考えて行きましょう。

参政党の国会質問はこちらから